

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	山中 美保	学校名	千代田区立麹町小学校
教科(科目)・領域	図画工作科	対象学年(人数)	6年 1組(30名)
実践年月日もしくは期間(時数)	2021年9月 ~ 11月(14時間)		

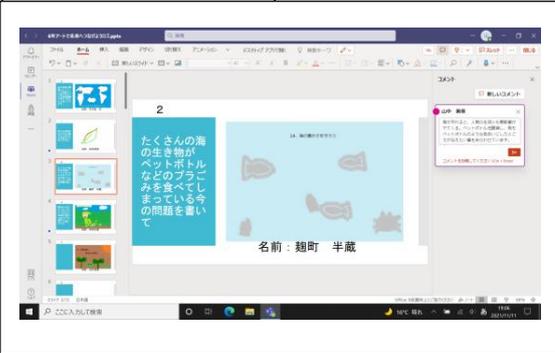
【実施概要】

1. 単元名(活動名): アートで未来へつなげよう (「未来」には、SDGs への関心や意識を意味します。)																										
2. 実践する教科・領域: 図画工作科	3. 学習領域																									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>1</th> <th>2</th> <th>3</th> <th>4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A 多文化社会</td> <td>文化理解</td> <td>文化交流</td> <td>多文化共生</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B グローバル社会</td> <td>相互依存</td> <td>情報化</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>C 地球的課題</td> <td>人権</td> <td>環境</td> <td>平和</td> <td>開発</td> </tr> <tr> <td>D 未来への選択</td> <td>歴史認識</td> <td>市民意識</td> <td>社会参加</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		1	2	3	4	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生		B グローバル社会	相互依存	情報化			C 地球的課題	人権	環境	平和	開発	D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
		1	2	3	4																					
	A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生																						
	B グローバル社会	相互依存	情報化																							
C 地球的課題	人権	環境	平和	開発																						
D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加																							
4. 単元の目標(評価規準を意識して設定): 自らが課題を見つけ、色や形で表し、友だちや身近な人々に見てもらうことで、作品に表したことを再確認したり、見方や感じ方を深め、SDGs に対する意識を高め、関心をもつ。																										
5. 単元の評価規準	<p>①知識及び技能 様々な取り組みを通して SDGs を学んだ中で、形や色で、その感じや表したいものや伝えたいものを理解している。</p> <p>②思考力、判断力、表現力等 形や色などの造形的な表現の中で、自分の思いやだれにも伝わるメッセージを表すと共に、見方や感じ方を深めている。</p> <p>③学びに向かう力 つくりだす喜びを味わい、主体的に友だちとイメージを共有する中で、表現することと鑑賞する学習活動に取り組もうとしている。</p>																									
6. 単元設定の理由・単元の意義 (児童/生徒観、教材観、指導観)	<p>【単元設定の理由あるいは単元の意義】</p> <ul style="list-style-type: none"> SDGsの17の目標の中には含まれていないアートを通して、スペシャリティの外部講師を迎えお話を聞いたり、作品づくりを体験する中で児童の身近なものであることを意識させる。図画工作の学習として行うので、お話を聞くだけでなく、何らかの表現活動を伴うようにする。 自ら体験したり、表現したものを校内や美術館に展示したり、制作したオリジナルの目標ステッカーを配布することで、見に来ていただいた方々へのSDGs発信へとつなげる。 <p>【児童/生徒観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習に対して意欲的で、力強い作品を好んでつくる傾向がある。 SDGsに関しては、「集会委員会のクイズで聞いたことはある」程度だが、身近な生活や具体的な話になると実はSDGsにつながることであったということを再確認している。 <p>【教材観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図画工作ならではの表現活動(作品制作)を通して、お話を聞くだけでなく、自分なりの解釈をし新たなものとして人に伝える、見てもらう題材設定委している。 <p>【指導観】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図画工作科から発信するSDGs学習を校内展覧会での発表として、全学年でテーマとしてかかげこの学習を通して、SDGsに対して一人一人の意識を高める。 様々なお話や制作体験をする中で、アートを通してSDGsについて考え、自ら発信する力へとつなげる。 																									

7. 単元計画 (全14時間)			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	「アートで未来へつなげよう」という単元名の「未来」にSDGsの視点を入れる意味を理解する。講師の方から紛争とNPOとしての活動のお話を聞く。平和について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボスニア・ヘルツェゴビナのお話を聞いたり、質問や感想を伝える。 ・葉莢からできた工芸品や、子供絵画展の作品鑑賞をする。 ・SDGsのどの目標と関連しているかを考える。 	イピルイピルの会 子供絵画入賞作品 「平和の願いを世界へ」from ボスニア・ヘルツェゴビナ展
2	ボスニア・ヘルツェゴビナの国の工芸に関心をもつと共に、戦争時に使用された葉莢を土産物として装飾し販売していた背景も考えつつ、校内展覧会で使用する子供学芸員目印メダルをつくる。	<ul style="list-style-type: none"> ・金属片でメダルを作ることの意義を話し合ったうえで、身近な金属片(アルミ缶)等でメダルを制作する。(校内展覧会時に子供学芸員の目印として使用する) 	ボスニア・ヘルツェゴビナの工芸品
3	講師の方々のお話から、SDGsは地球規模で考えていかななくてはならないことであり、環境問題や食事で栄養について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・アフリカ(ケニア)とアジア(東ティモール)の二つの国に青年海外協力隊としてボランティア活動を行っていた方々からお話を聞く。 ・SDGsのどの目標と関連しているか考え、話し合う。 	JICA 地球ひろばの地球案内人の方とオンライン
4	講師の先生より縄文文化が持続可能な暮らしであったこと。講師の先生がアートを通してSDGsに取り組んでいる事を知る。縄文文化体験をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・1万年以上続いた縄文文化の美しさや重要性を感じ取る。 ・苧麻から糸を撚る縄文文化体験をする。 	あおもり JOMONGYOMO プロジェクト「縄文漁網を編む—食物繊維を素材とした漁網制作—」
5	撚った糸を10本つくる。漁網を編む。	<ul style="list-style-type: none"> ・撚った糸を一人10本つくる。 ・漁網を編む。 	東京藝術大学美術学部美術教育研究室・染織研究室から講師
6	漁網を仕上げる。鑑賞をする。縄文文化体験のまとめをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・漁網を編む。 ・制作意図や感想を発表する。友だちの考えや表現のよさを知る。 ・縄文文化や人々の暮らし、手づくりの漁網について発表する。 	
7	漁網をトートバックに印刷をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・魚網のひもの形や全体の構成を新聞紙の上で考える。 ・魚網にインクをローラーで塗り、トートバックに写す。 ・縄文時代の漁網が、なぜ持続可能なのか、SDGsのどの目標と関連しているか考え、話し合う。 	順番に漁網の形を写す。
8	これまでの3つの活動がいずれもSDGsに関連し、それぞれの取り組みについて考える窓口になっていたことを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA地球ひろばの児童質問の答えの紹介 ・3つの例以外にも自分が興味や関心を持ったSDGsについて考える。 ・自分は何の目標が大切だと思うか、その理由は何かを話し合う。 	3つの活動について児童が黒板に記入したものの冊子「共につくる私たちの未来」他(JICA地球ひろば)

9	17の目標の中から自分の関心の高いものを選び、オリジナルデザインを考える。	<ul style="list-style-type: none"> 自分が関心が高く選んだ目標のオリジナルデザインを考える。 	<p>タブレットパソコン使用</p> <p>Windows のアクセサリの「ペイント」とタッチペンの使用。</p>
10	目標のオリジナルデザインをタブレットパソコンを使いタッチペンで描く。	<ul style="list-style-type: none"> 内容が分かるように形や色のバランスを試行錯誤しながら表す。 	
11	色や形、文字のバランスを考えながら仕上げる。	<ul style="list-style-type: none"> 人に分かりやすく全体の色と形が自分が決めた17の目標の一つの内容を表す。 	
12	作品を紹介する為にタブレットパソコンに入力する。	<ul style="list-style-type: none"> Teams の「パワーポイント」に作品と作品の紹介文を入力する。 	<p>タブレットパソコンの Teams で「パワーポイント」使用</p>
13	印刷をする。色や形を最終確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 試し印刷をする。 画面で見る色と印刷の色合いに違いがあるため、印刷したものの色調を確認し、自分らしい色や形で表す。 	<p>プリンター使用</p>
14 本時	各作品がSDGsとどのように関連し、作品のよさや理由を考え、鑑賞する。	<ul style="list-style-type: none"> Teams の「パワーポイント」で、互いの作品を鑑賞し、各作品がどのようにSDGsと関連しているか、そのデザインがなぜいいと思うのかをコメントで記入する。 今回の学習について、まとめをする。 	<p>印刷した児童作品</p> <p>タブレットパソコンの Teams で「パワーポイント」使用</p>

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (8分)	1. 学習内容を確認する。 「皆さんが作成したオリジナルロゴを鑑賞します。」「黒板にも掲示していますが、Teams の画面でも鑑賞できます。」 (1) コメント機能の使い方を説明する。 「Teams の「コメント機能を使います。」 (2) 着目点を紹介する。 1. SDGs の目標の内容とどのように関連しているか。 2. そのオリジナルロゴがなぜ良いか。 3. 感想等 「お友だちの作品を見てコメントを記入してください。」	タブレットパソコンで児童一人一人が作品を Teams に表示できているか確認をする。 具体的に記入し、コメント機能の紹介をする。	児童作品 タブレットパソコン Teams 「パワーポイント」の活用 電子黒板で紹介する。
展開 1 (10分)	2. コメントを記入する。 「時間があればたくさんの作品を見て書いてください。コメント以外にも、グッドマークなどをつけてもよいです。」 ・マイクロプラスチックを食べた魚をその色の魚で描かれていて分かりやすい。 ・環境問題は、私たち人間の生活に戻ってくることが伝わってきた。 ・水の大切さが表せています。 「よいコメントが書けていますね。もらって嬉しいコメントは良いですね。」	タブレットパソコンの操作などの支援を行う。 ポジティブなコメントの記入を促す。 コメントの内容で今回の SDGs に即した内容の記入している児童名と簡単なメモをとる。	電子黒板で画面を掲示する。
展開 2 (15分)	3. コメントを確認する。 (1) 「それでは、記入するのはここまでです。皆さん自分やお友だち作品へのコメントを確認してください。」 (2) 「まずは、自分の作品で記入されたコメントにどんなものがあった、どう感じまし	(確認している時間を待つ。) 児童が発表するコメントに対して認めた	



	<p>たか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・海の生き物が困っている様子が上手く描いている。 ・水の大切さが分かりやすく描けていた。 ・環境問題は、海の中だけではないことを感じた。 <p>(3) いくつかピックアップしたコメントの中から SDGs との関連性を取り上げる。</p> <p>「〇さんの木の環境問題の絵が都会の街の木になっていて山や森だけではなく、身近な地域も含まれることが分かりやすく描かれています。」</p> <p>「確かに、身近な景色は SDGs を身近に意識する感じがしますね。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童の関心が高い環境について 	<p>り、共感しながらすすめる。</p> <p>環境のこういった場面に関心をもったかを発表させる。</p> <p>児童が自分事としてとらえるようにする。</p>	
<p>まとめ (10分)</p>	<p>4. SDGs 学習のまとめをする。</p> <p>(1) 自分ができること</p> <p>「それでは、9月から SDGs について調べたり、講師の先生を迎えてお話やアート作品づくりなども行いましたが、始める前と今では何か考えに変化があったり、思うことはありますか。」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニでわりばしをもらわないようにする。 ・これからは、給食を残さないように、先にながてなものは減らすとかしたい。 ・SDGs の目標は、どれも大切だと知った。 <p>「自分の行動が身近な環境や生き物、世界の国の人々などにも影響していることになりますね、ぜひ自分の生活にも生かしていきたいですね。」</p> <p>(2) SDGs について発信する。</p> <p>「1月にある校内展覧会でも皆さんがつくったロゴをステッカーにして、見に来た人にお渡しするので、お家の方や他の学年の子にも伝えていきたいですね。」</p>	<p>SDGs の学習の前と後での変容を発表させる。</p> <p>今回の学習から展覧会での発表を再確認する。</p>	<p>印刷したロゴステッカーの例</p>
<p>片付け (2分)</p>	<p>「時間となりましたので、タブレット、タッチペンを片付けます。」</p>		

9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

- ・オリジナルロゴ制作に児童が選んだ17の目標を意識しつつ、自分らしい色と形で表しているか。（表現：作品）
- ・お友だちの作品を鑑賞することで、互いの作品のよさを認める。また、SDGsの学習前と後での関心や意識の変化を確認する。（鑑賞：発表・Teamsのパワーポイントに記入したコメントデータ）

10. 学習方法および外部との連携

学習方法

外部講師の方からのいくつかのお話やアートを通じた体験学習を通して、SDGsを具体的にお話の中から知ったり、自ら表現することで、自分の身近な問題ととらえ、1月に行われる校内展覧会では、制作した作品を通して、身近の人々にも発信する。

- ・イピルイピルの会 子供絵画入賞作品「平和の願いを世界へ」from ボスニア・ヘルツェゴビナ展
 - 1) 3つの民族間の紛争と平和への願いについてお話を聞き、遠い国の話ではあるが、平和の大切さや人や国の不平等などについて考えるきっかけとする。（17の目標の中でも子供たちが具体的に考えにくい内容を知る。）
 - 2) 絵画展の展示を鑑賞することで、遠い国ではあるが、子供たちの絵には、自分と同じように夢や希望があることを知る。
- ・JICA 地球ひろば 地球案内人の方々
 - 1) アフリカ（ケニア）の環境問題、アジア（東ティモール）の食事や栄養などのお話を聞き、SDGsは、世界規模で考えなくてはならないことを知り、身近に取り組めることを考えるきっかけとする。
 - 2) 質問をメールで行い、写真や動画の紹介などの回答をもらい、関心を高める。
- ・あおもり JOMON GYOMO プロジェクト「縄文漁網を編むー食物繊維を素材とした漁網制作ー」
東京藝術大学美術学部 美術教育研究室 染織研究室
 - 1) アートを通して、SDGsとの関わりを実践している方のお話を聞き、自分の意識や表現を考える。
 - 2) 1万年以上続いた縄文時代のSDGs的な文化に触れ、体験する。
- ・SDGs目標オリジナルロゴづくり（図画工作科の学習）
 - 1) SDGsの17の目標の中から自分なりに課題を決め、目標ロゴを制作する。
 - 2) 互いの作品を鑑賞し、SDGsについて学んだことをまとめる。

11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み

- ・ボスニア・ヘルツェゴビナの子供絵画を校内に展示し、図画工作の授業の中で、4～6年の児童は、鑑賞することを通して、「16 平和と公正をすべての人に」や「10 人や国の不平等をなくそう」に触れる。
- ・3年に1回の校内展覧会でアートから発信するSDGsを意識した展示を行い、児童、園児、保護者などに鑑賞を通してSDGsの意識付けを発信する。（子供学芸員の目印メダルを胸につけて使用し、作品の解説を行う、また、6年児童が制作した漁網、それをプリントした袋の展示やSDGs目標オリジナルロゴステッカーを鑑賞者が持ち帰る等）
- ・あおもり県立美術館での漁網展示の一部に現6年児童の制作した漁網も展示予定（2022年）

【自己評価】

12. 苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・3つの内容からSDGsに結びつけていく学習内容の為、制作時間に個人差が大きく出てしまい、次の講師の方の予定が決まっていることで、十分に一つ一つのまとめをする時間が取れないことがあった。図画工作科の学習では、制作時間と話し合いする時間の兼ね合いをよく吟味しつつ進める必要があった。 ・2か月位に渡っての授業計画だったので、外部講師の方々の日程が決まっていたり、他の教科との兼ね合いで、校内の時間割の変更が難しい為、月曜の組と水曜の組では、授業の流れが一部順序を変えて行う事となった。コロナ禍もあり学習期間も長かったので、変更などが起きやすかった、児童のモチベーションを維持する為にもゆとりをもって行えればよかった。 ・学校内のICT機器の5年ぶりのリプレースの時期と重なり、使用機器がしばらく安定して使用できなかつたり、使用アプリも新しいアプリの使用を探る時間が必要となり、指導計画で具体的に使用するアプリを決める迄に時間を要した。
13. 改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いの時間をもう少しとれば、内容もより深まったと思う。東京都の場合は、図画工作科は専科であるので、授業を教科内で納めるには予定の変更が難しかった。しかし、各担任と総合的な学習と組み合わせれば話し合いなどの時間をしっかり確保できた。その反面、どちらの時間も参加すると学級数が多い場合は教師の時間確保が難しく、各学級の担任との打ち合わせをする時間も増えてくるであろう。もし、学級担任として行った場合、時間の変更なども容易にできたであろう。 ・3つの取り組みを行ったが、どれか1つだけに絞って行くと時間的に余裕もでき、内容をより深めることができたと思う。 ・紙や黒板に記入する場合に比べて、全体での発表形式の場合、意見が少なかった。隣の児童との相談等をしての発表も含めたらよかった。
14. 成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsについて調べ学習などから入るのではなく、講師の方のお話や作品制作を通して学習に取り組んだ。この体験をから、国の違いによって平和、健康、給料、環境等が違うことも具体的に知り、何かできることを考えたり、縄文の漁網づくりでは、苧麻(チョマ)から糸をより、網を編む等、1から作り出す活動は昔の人々の英知を知ったり、どのように苦勞していたかを実際と同じように時間を費やす中で、縄文時代の人々の英知やSDGsな暮らしについて考えることとなった。それは、児童の感想の中にも表れていた。 ・巷ではSDGsが騒がれてはいるが、児童は何となく分かっていた程度だったが、それが何であり、持続可能にする為にはどういったことができるか考えるようになった。校内の展覧会では、児童の考えたオリジナルロゴのステッカーを紹介し、来校している鑑賞者にお好きなものを持ち帰って頂くことで、各家庭でもSDGs意識してもらうことを6年児童から発信する機会となった。 ・他学年の展覧会作品の表示にも、作品制作にあたって17の目標を意識して、6年児童がつくったロゴをつけた。また、縄文漁網やその網を写した袋等も展覧会で展示することで、学習してきた成果を発表できた。 ・ボスニアヘルツェゴビナの工芸品(葉莢からできている)を意識し、空き缶から「子供学芸員のメダル」づくりをし、展覧会時に胸につけて、作品の説明をした。

<p>15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)</p>	<p>SDGs について学習を始めた頃 (※全体の意見も少なかった。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「児童集会のクイズで紹介されていた。」 ・「給食の残飯について栄養士さんから教わった。」 ・「ゴミ問題」 ・「校内に SDGs 17 の目標のロゴが貼ってある。」 <p>SDGs について学習のまとめ後 (※一人一つの感想や意見、内容も濃くなった。)</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・「戦争をしていたボスニア・ヘルツェゴビナについての話を聞いて、今平和な日本に感謝しようと想ったと同時にボスニア・ヘルツェゴビナの人たちになにができるか考えてみようと思いました。」 ・「(日本からボスニア・ヘルツェゴビナ植樹している) 桜が平和につながると知っておどろき、さらに桜が好きになりました。」
	<ul style="list-style-type: none"> ・「平和の大切さが知れた。」 ・「(東ティモールやケニアの話から) 日本と違うところがたくさんあってびっくりした。」 ・「自分が健康でいられることが奇跡だと思いました。」 ・「大人になったら栄養不足の子供達のために募金活動に参加したいと思った。」 ・「(ケニアの国立公園) レンジャーの仕事は大変なのに、給料が日本に比べて、安かったので、日本は裕福だと改めて思いました。」
	<ul style="list-style-type: none"> ・「ただの植物から漁網や今身につけている服までできると知り、縄文人は自然の恵みを大切に使い切っても、また循環させていると知り、縄文人の自然への思いを感じるとともに、その姿勢は現在も受け継がれていると知り、人間の自然を敬う気持ちはすごいなと思った。」
	<ul style="list-style-type: none"> ・「実際に縄文漁網をつくってみて、少し難しかったけれど縄文人が知恵をつかっているすごさを知れてすごく昔のことなのにすごいと思った。」 ・「昔の人がどんな工夫をしていたかわかったし、縄文の人のイメージが変わって、すごいなと思った。」 ・「縄文時代の人々は、今と違ってみんなで協力してものをつくっていたと知り、今の人間は孤独だなと思いました。」 ・「昔の人の方が今より平和でいいなと思った。」 ・「いつも消費者の立場だったので、漁網をつくってみて、SDGs を考えることができました。」 ・「つくる責任、つかう責任を知った。」 ・「今は、プラスチックゴミなどが増えてるから、水でとける植物のようなものがプラスチックなどのかわりになればすごいと思った。」 ・「ひとり一人の心がけによって将来のためにつながることを改めて感じました。」 ・「SDGs についてたくさん知ることができたので、将来役に立てるようにこれからの生活に生かしたい！」 <p>※一人一人の意見ではあるが、3つの体験から得たことで、今回の目標とした意見へとつながられた。</p>

16. 授業者による自由記述	<p>本年度は校内展覧会があり、最終的に児童がSDGsの取り組みを発表する機会があることを前提に、図画工作科でもSDGsの授業ができるのではないかと思います。取り組んでみた。</p> <p>また、夏に行っていた東京藝術大学のSDGsの展覧会からアートを通したSDGsへの取り組みは様々で「SDGsの17の目標にアートがない。→アートは全てに関与している。」ことが今回の授業内容を始めるきっかけとなった。</p> <p>学習を進める上でJICA地球ひろばの地球案内人の方々をはじめ、東京藝術大学の美術教育研究室の方々やボスニアヘルツェゴビナを支援しているNGOの方々のご協力で、児童にそれぞれ体験や作品制作を通して、SDGsについて考えさせた。子供たちの意見や感想の中に、今回の授業SDGsのねらいが表れていたのがよかった。</p> <p>3つの内容には、3つの制作が伴うため学習内容も時間も多かかった。しかし、作品の完成が早い遅いの個人差もでて時間のやりくりで苦労した。図画工作科ということで、元々話合いの時間の確保は厳しい上に、時間配分もなかなか計画通りにはいかなかった。</p> <p>ただ、SDGsは分野を問わず、切り口はどこからでも取り組める学習内容であり、今年度は、学校行事展覧会に絡めるような大きな学習であったが、1つの取り組みにしぼって行っても学習は深めていく事ができると思った。今回の授業をきっかけに、新たな図画工作科から発信するSDGsの教材研究を今後も進めていきたい。</p>
----------------	--

参考資料：

資料

- ・「共につくる私たちの未来」JICA 地球ひろば
- ・「世界の水問題」JICA 地球ひろば
- ・「いのち、輝け！」JICA 地球ひろば
- ・「学校に行けない世界の子どもたち」JICA 地球ひろば
- ・「世界の資料」JICA 地球ひろば
- ・「砂漠化する惑星」JICA 地球ひろば
- ・「学校に行きたい」JICA 地球ひろば
- ・「私たちが目指す世界」公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン

参考

- ・「SDGs×ARTs」展 十七の的には芸術がある（東京藝術大学美術館）

協力

- ・子供絵画入賞作品「平和の願いを世界へ」from ボスニア・ヘルツェゴビナ展
イピルイピルの会の方々
- ・JICA 地球ひろば 地球案内人の方々
- ・あおもり JOMON GYOMO プロジェクト「縄文漁網を編むー食物繊維を素材とした漁網制作ー」
青森県環境生活部県民生活文化課
東京藝術大学 美術学部 美術教育研究室・工芸科染織研究室